

## 「高校生会」の募金で完成

### 開校式に出席 メンバーが報告会

カンボジアの老朽化した小学校の再建を目指して募金活動を続け、再建された現地の小学校の開校式に出席してきた県内の高校生約20人で行く「AMDA高校生会」のメンバー、渋谷未来さん(16)岡山城東高2年Ⅱらが3日、同市楠津のAMDA本部近くのケアハウスで報告会を開き、自分たちの活動成果が実った感動を語った。メンバーは今後も現地の子供たちとの交流を続け、さらに他の小学校の再建も視野に入れて募金活動を継続することになっている。

【駒崎 秀樹】

校舎は耐久性を考慮して鉄筋コンクリート製とし、100平方メートルの教室が4室ある校舎棟、職員室、ディケアセンターなどがある。開校式には渋谷さんのほか、川上祐希君(17)倉敷天城高3年▽千翔翔子さん(16)岡山白陵高2年▽寺門宏枝さん(16)岡山城東高2年Ⅱが出席した。「自分たちの活動を現地の人たちがどうとらえているのかわかりたかった」という思いからだった。渋谷さんが英語でスピーチし、あや取りや折り紙で現地の子供たちと交流。AMDAが現地で実施している「モバイルクリニック」(巡回診療)にも参加した。

再建された小学校は、カンボジアの首都、プノンペン近郊の農村にあるコンボンズプ州立「チャンバック小学校」。同校は木造校舎のため床が抜けたり、雨漏りするなど老朽化が目立つが資金難のため修理もままならず、机や椅子などの備品も不足していた。

AMDAを通じて窮乏を知った高校生会は1999年4月から休日や夏休みを利用して、県内外で募金活動を続け、昨年9月までに130万円が集まった。この活動を知った広島市内の企業が資金援助を行い、昨年11月に着工。3月14日に新しい校舎が完成した。

現地で撮影した学校の写真を手に、カンボジア訪問の印象を話す渋谷さん(中央)ら—岡山市楠津で



感動が本当にうれしかった」と話し、学校にあった奉加帳に「一緒に未来をつくっていきましょう」とメッセージを残したという。同行したAMDA職員の前場賢一さん(30)も「高校生たちはすべて自分たちで計画を立て、行動しました。その行動力に圧倒されました」と話している。